

	出血先行	出血疼痛 同時	疼痛先行
破 裂	32.56%	23.25%	44.18%
流 産	58.41%	25.74%	15.84%

月経より40日以内に開始するものが多く(56.18%),破裂では41日以降が多い(56.75%).外出血を全く欠くものは破裂に多く(18.16%),流産では稀である(2.8%).外出血と疼痛発現との時期的関係は次表の如く破裂

では疼痛先行が多く,流産では出血先行が多い.流産の出血先行は1~20日という長期間のものが多く,甚しきは31日以上も先行している.

Ⅲ 遷延性卵管妊娠流産について

非定型的経過をとり内出血少量でダ氏窩穿刺によるも診断困難で,ダ氏窩切開により初めて確定する場合がある.発病より手術までに3週間以上を経過したものが多

第13群 物質代謝, 機能に関する問題

1. 妊娠及び流産に於ける血清蛋白結合沃度の消長に就いて

(都立墨田産院) 大石 益光

血中沃度の蛋白結合成分と溶解成分との分離化の意義は, Curtis, Rapport 及び Barker 等による測定法が案出されるにつれて明らかとなった.妊娠時の血清蛋白結合沃度(以下 P.B.I と略す)については1948年 Heineman, Johnson 及び Man により報告され,その後 Lerry, Peters, Russel により追加されている.流産との関係についても同じく Heineman, Russel により報告されているが,私も妊娠及び流産について P.B.I を測定し2, 3の興味ある知見を得たのでここに報告する.

実験方法: Chaney, Riggs, Man, Taurog, Barker 等の方法をもとにした蒸溜法の変法を用いた.

実験結果: 1.正常妊娠では2カ月より10カ月迄総計126例について平均2カ月8.56, 3カ月10.3, 4カ月, 11.73, 5カ月11.73, 6カ月11.71, 7カ月11.80, 8カ月 12.17, 9カ月12.10, 10カ月12.86 γ /dlとなり,妊娠4カ月迄に殆んど上昇し, subclinical な Hyperthyroidism の状態を示し,その後分娩終了迄その状態を継続する如く思われる.

2.正常産褥では分娩時17例の平均13.00 γ /dl のものが産褥第1日12.22, 2日11.00, 3日11.56, 5日10.28, 7日 9.4 γ /dlとなり,数日乃至数週後に正常状態に復すると思われる. 3.人工中絶に於ても術前既に P.B.I の上昇のあるものは術後数日で正常値に復するようである. 4.自然流産で既に出血の始まつて居るものは P.B.I が低かった. 5.習慣性流産の患者については非妊時は正常非妊婦と P.B.I 値の差は認められなかった. 妊娠時も P.B.I 上昇の早いものは殆んど妊娠を継続し

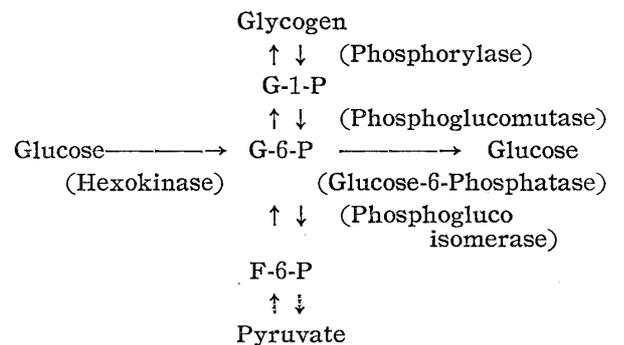
得たが, P.B.I 上昇の遅いものは流産に終つたものがあつた.このことから考えると, P.B.I 上昇の少ないものは流産の危険性があると思われる.

2. 各種実験条件下に於ける白鼠肝の糖質中間代謝の變動に就いて

(京大) 生田基弘, 平林 登
山田隆治, 西郡確一, 山上 仁

従来,糖質代謝の研究に於ては組織グリコーゲン及び血糖の量的変化が主として追求されているが,その中間代謝の動きについての検索は余り行われていない.例えば肝グリコーゲンの増量をみた場合にこれがグリコーゲン合成の亢進によるものか或はグリコーゲン分解の抑制によるものであるか等の中間代謝の變動に関する解明は余り行われておらず看過されていた憾みがある.

一般に肝に於けるブドウ糖とグリコーゲンの中間代謝過程及びそれに関与する酵素を示すと次の如くである.



そこで私は当教室に於ける“妊娠時の糖質代謝の研究”の一環として,各種の実験条件下に於ける白鼠肝グリコーゲン,血糖及び上記の諸酵素の活性等の變動を検索して糖質中間代謝の一端を窺つた(備考: Phosphoglucomutase は Mutase, Glucose-6-phosphatase は G-6-Pase, Phosphogluco isomerase は Isomerase と